

【16】 部品を備蓄しないことは賢いのか？

30 年ほど前、自動車生産の分野で、余計な部品を抱え込まないで必要に応じて的確に供給するという方式が、革命的ともてはやされた頃、私は和歌山県で（旧）建設省の出先の事務所の所長をしておりました。

自動車の座席シートを製造している中小企業の幹部と知り合いになりましたが、彼の言によると自動車メーカーは下請けいじめの横暴だということです。

下請けの造った製品を親会社の工場に〇時〇分に〇〇個納入せよと分単位と個数単位で納入を指定され、間にあわないと代金を支払ってもらえないので、道路交通の不確実を考慮すると、指定時刻の何時間前にも前に製品を積んだトラックが工場近くで待機せざるを得ないということです。

下請企業にとっては以前より面倒になって負担が多くなったとのことでした。

話し半分と聞いていましたが、親会社の部品のストックを持たないという合理化が下請企業の負担を増す、すなわち生産性の低下を招くということに気づかない考えの浅はかさに驚くばかりでした。

又、2011 年の東日本大震災で東北地方の自動車の部品工場が被災したため、部品の供給が滞おり、親会社の自動車生産が減産に追い込まれました。

以上 2 例に見られるように、部品のストックを持たないということがそんなに革新的な思想なのか、技術者の私にも理解できないのです。